

令和7年度 ミニトマト(アンジェレ) 技術情報 No. 3



- 1 生育に応じてかん水量を増やし、追肥を実施しましょう。
- 2 高温対策のために適切な換気（天窓や肩換気の設置、妻面の開放）、遮熱・遮光資材を活用しましょう。
- 3 7月は灰色かび病、葉かび病（すすかび病）に注意しましょう。

1 栽培管理

(1) かん水

晴れた日の午前中に行います。かん水開始のタイミングは日の出2時間後が目安です。

1回あたりのかん水量は、2本仕立て栽培の場合、株あたり2～4Lが目安です。夏の高温期は吸水量が増えるため、注意しましょう。

かん水が不足している場合、草勢が弱まり、茎が細くなります。草勢回復のために、かん水量を増やしましょう。

(2) 追肥

草勢を見ながら、10～14日おきに実施します。2本仕立ての場合の標準施肥量は、窒素成分量で株あたり2g（野菜追肥S535では10g程度）です。

収穫開始後は着果負担が大きくなります。標準量でも草勢低下が見られる場合は、追肥の量を増やして草勢維持に努めましょう。

粒状肥料を使用する場合は土壌が乾燥していると肥料成分が溶け出しにくいため、かん水も合わせて行いましょう。

(3) 高温対策

梅雨時期は、一時的な晴天による萎れ、落花等が発生しますので、適切な換気（天窓や肩換気の設置、妻面の開放）、遮熱・遮光資材の活用による強日射対策を実施しましょう。

(4) 誘引

斜め誘引では、生長点が横ばい～下向きになると草勢が低下しやすいため、上向きになるように結束します。また、光が均一に当たるように茎と茎の間隔が一定になるように調整しましょう。

(5) 摘花（果）作業

花茎の本数は2本程度に揃え、1花房あたり20～24果を目安に摘花（果）します。高温期は花茎を1本にすると、株の負担が減り、果実品質と草勢が安定します。遅れ花（果）は除去しましょう。

(6) わき芽かき

わき芽は**3～5cmの大きさ**で早めに摘み取ります。開花花房直下のわき芽は、残しておくと株への負荷が大きいため、早めに除去しましょう。

(7) 授粉作業

トマトトーンによるホルモン処理は**確実な着果**と**肥大促進**の効果があります。使用する場合は農薬登録を遵守してください。

表1 トマトトーンの農薬登録内容

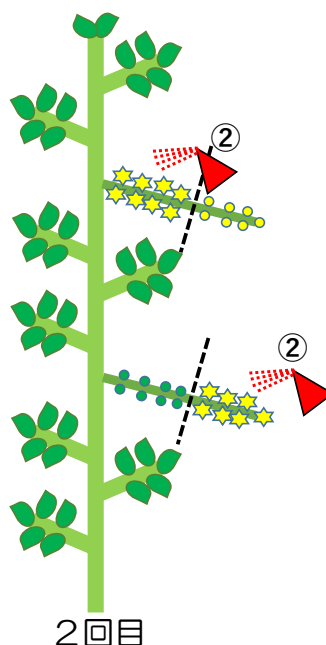
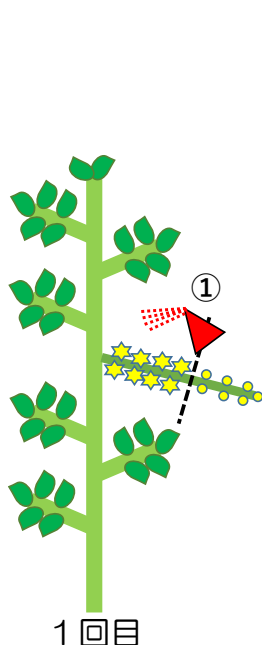
作物名	使用方法	希釈倍数		使用時期	使用目的	本剤の使用回数
ミニトマト	散布	低温時 (20℃以下)	50 倍	開花前 3 日～開花後 3 日位	着果促進、果実の肥大促進、熟期の促進	1 花につき 1 回
		高温時 (20℃以上)	100 倍			

※令和7年6月25日の農薬登録情報に基づき作成しています。

食紅を添加することで、処理済みの花に赤い目印がつきます。



茎や葉に噴霧しないように、手のひらで覆って散布します。



3 回目以降も同様に

図1 トマトトーン散布のポイント

2 病害虫防除

- (1) 7月は**灰色かび病、葉かび病（すすかび病）**の発生に注意しましょう。
- (2) 防除暦を参考に**定期防除**を行いましょ。農薬を使用する際はラベル表示を確認し、使用基準を遵守してください。
- (3) 防除の際は**葉裏、下葉まで十分な量の薬液がかかるように丁寧に散布**します。
- (4) 管理作業で出た葉や果実などの残さは病気の伝染源になります。**作業後は圃場に残さず、処分**しましょう。

病害虫名	7			8			9			10		
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
灰色かび病												
葉かび病												
アブラムシ類												
アザミウマ類												
コナジラミ類												
オオタバコガ												

□ : 発生時期 ■ : 重点防除時期

図2 発生時期の目安（雨よけ栽培の例）

(5) 灰色かび病

【発病条件】

梅雨時など曇雨天が続く場合に発生しやすいです。窒素過多などによる過繁茂で発病が助長されます。

【対策】

ハウス内の換気、古い花卉や葉先枯れの除去



図3 葉の病斑(左)と果実のゴーストスポット(右)

(6) 葉かび病（すすかび病）

【発病条件】

発病適温 20～25℃、多湿条件で発生しやすいです。肥切れや着果負担で発生が助長されます。（すすかび病は葉かび病に比べて高温期に発生が多いです。）

【対策】

下葉の整理、肥培管理や摘果の徹底による草勢維持。葉かび病抵抗性品種の TY アンジェレでも葉かび病が発生する場合がありますので、定期的に防除を行ってください。



図4 葉かび病の病斑

(7) オオタバコガ

【生態】

県内では7月中旬から 10 月まで成虫の飛来があります。広食性の害虫で、幼虫は生長点付近の茎葉や果実、花蕾などを加害します。

【対策】

被害果の片付け、幼虫の処分、防虫ネットの利用

オオタバコガの発生がここ数年で早まっています。幼虫や食害痕を見つけたら早期に防除を行ってください。

オオタバコガが発生した場合は、令和7年度ミニトマト特別散布一覧を参考にして、薬剤散布を実施してください。



図5 オオタバコガ（左：幼虫、右：成虫）

(8) トマトキバガ 管内でも発生が確認されています！

【生態】

ナス科植物を寄主とし、特にトマトに深刻な被害をもたらす恐れのある害虫です。幼虫は0.5～8mm程度と微小で、葉肉内を袋状に食害します。幼虫は、特に新葉や生長点付近を好み、そこに接する茎や果実に被害が拡大します。

【対策】

薬剤散布による化学的防除、**適切な摘葉や整枝**による幼虫や卵の耕種的防除、ハウスの入り口や開口部に**目の細かいネット**を張り、成虫の侵入を防ぐ物理的防除を組み合わせた防除が効果的です。



図6 トマトキバガの幼虫



図7 トマトキバガによる食害

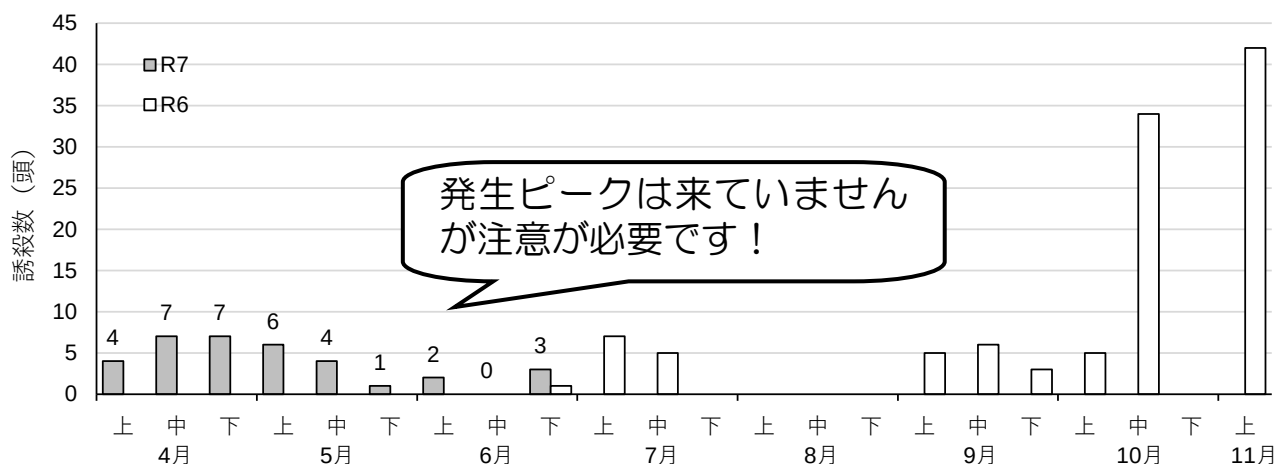


図8 陸前高田市に設置しているトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺状況
(R7は3/26、R6は5/24に設置)

★いわてアグリベンチャーネットメールサービス会員募集中

農作物技術情報や農村地域の情報を幅広く提供する岩手県公式サイト「いわてアグリベンチャーネット」のメール会員を募集します。

登録方法は以下のホームページをご覧ください。

URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/maillinglist.html>

★6月1日～8月31日は農薬危害防止運動実施中

農薬を安全かつ適切に使用するために、農薬ラベルでの使用基準の確認、使用履歴の記帳を徹底しましょう。